



青少年しまね

No. 106 令和7年(2025)3月

発行：青少年育成島根県民会議
〒690-8501 松江市殿町1 県庁青少年家庭課内
TEL：(0852)-22-6255
FAX：(0852)-22-6045



広げよう！スマイルの輪

しまニッコ！サポーターズ活動紹介

しまニッコ！県民運動は家庭や学校、地域や職場でコミュニケーションを広げる運動です。
サポーターズとして運動を推進している団体を紹介します！ サポーター数 5,430 名（R7.3月末時点）

松江市立持田小学校（松江市）

1月中旬から1ヶ月間、ふれあい委員会が中心となり、しまニッコ！運動とタイアップする形であいさつ運動を行いました。運動は委員会のメンバーだけでなく全校児童に声をかけて、みんなが一緒になってあいさつ運動を行えるように工夫しました。

あいさつ運動を進めるにつれ、元気の挨拶で明るく教室に入ってくる児童が増え、児童からも「友達とあいさつできて楽しかった。」「普段話すことのない人ともコミュニケーションをとることができて良かった。」「自分から挨拶をして、相手にも返してもらおうと楽しかった。」といった前向きな感想が聞かれました。



..... サポーターズ募集中

サポーターズには大人も子どももお申込できます！
個人だけでなく、地域団体・学校・職場単位でのお申込もOK。
あなたもサポーターズとしてしまニッコ！県民運動を広めませんか？

.....



▲お申込はこちらから

令和6年度 青少年の主体的な活動支援事業 助成団体事業紹介

この事業は、県民会議の活動に賛同し、推進していこうとする青少年自身や大人、それらに関わる団体が、青少年の主体的な活動やその支援、継続的に青少年の居場所を開設している団体に対して助成し、その成果を県内に広報することで青少年の地域活動の普及・啓発を図ることを目的とした事業です。令和6年度は「青少年地域活動チャレンジ支援事業」に4団体、「青少年育成ネットワークモデル支援事業」に2団体、「青少年の居場所支援事業」に3団体の計9団体に助成しました。

A 青少年地域活動チャレンジ支援事業 青少年の主体的な活動やその活動を支援する大人の支援体制づくりへの助成

かまで地域づくり協議会ひとづくり部会 BEYOND（益田市） ＜U-15 カマテミーティング＞

地域の中で小中学生がやってみたいことを自分たちのチカラでカタチにし、その過程で学び、仲間と達成感を共有しながら成長して欲しいという想いで令和4年度から活動しています。月に1回ミーティングを開催し、することを決めています。今年度はピザづくり、SUP体験、モルック、公民館でのお化け屋敷などを企画しました。

活動が子ども同士の交流の場になるとともに、学びや成長の場にもなっています。共通の目的に向かって協力することで、仲間同士の絆が深まり、チームワークの重要性を実感することが出来ました。また、地域の大人たちとの交流を深める良い機会にもなり、地域への愛着や人間関係を築く力が生まれ、子どもたちのエネルギーや創造性により地域に新しい風を吹き込むことが出来ました。



（他の助成団体事業はP8をご覧ください）

「子どもは未来を担う 今を生きる存在」

青少年育成島根県民会議 会長 高橋 賢史



子どもが成長し次の時代を担っていくことは、遙か昔から続いている疑いようのない事実ですが、そこだけを切り取ると大人の期待を背負わせている部分が強調され、子どもにとって重荷になりすぎている面が見えることがあります。しかし、子どもは未来を生きるだけでなく、今を生きる存在でもあるという視点を持つと変わってきます。未来は大切だが、今も大切であり、未来（将来）のために子どもの今を犠牲にしてはいけないという視点が加わってくるはずです。

こども基本法は2023年4月に施行され、併せてこども家庭庁も発足しましたが、その約30年前の1994年に日本は子どもの権利条約を批准しています。ただ、その後も日本は国連・子どもの権利委員会から4度の審査を受け、勧告を受けていました。2019年に緊急措置が必要とされたのは、「差別の禁止」「子どもの意見の尊重」「体罰」などです。また、それまでも繰り返し勧告を受けてきたのは「競争的な学校制度が子ども期を奪っている」「社会の競争的性質」というものでした。

子どもの権利に関する日本の消極的な方針が変わる契機となったのは、コロナ禍での一斉休校をはじめとする政治・行政の支配的・抑圧的な意思決定により、子ども・若者自身の存在やその尊厳と権利の軽視、侵害が可視化されたことでした。（島根県はその権利侵害に明確に反対していたことを覚えています）

今後、子どもの権利を犠牲にすることなく「こども自身を権利の主体」として、「こどもまんなか社会」を実現していくために、取り組むべきことは多いと思いますが、まずは2つ挙げてみたいと思います。

1つ目は、「子どもの権利を学ぶこと、知ること、教えること」です。その先に「身に付ける、が見えてくるはず」です。「遊ぶ権利」「休む権利」と聞いても馴染みがない人は、子どもだけでなく大人にも多くいるのが実状ではないでしょうか。まずは、誰もが子どもの権利について知ることから始めるしかありません。特定の人たちだけ人権意識が高くても子どもの権利は守られません。集団全体が子どもの権利について知り、守る意識と行動があってはじめて守られるのです。

2つ目は、「子どもの声をきく」です。未来を担うだけでなく、今を生きる存在である子どもたちは、今の社会に言いたいことがあるはず。ただ、言語化される意見だけに偏ることには要注意です。大人は子どもたちの声なき声をきく必要があります。子どもたちが身近な課題や社会をより良くできたと実感できることは、子どもの社会参画にとって大切です。声を受け止めてもらった経験は援助希求行動（SOSを出す）にもつながってきます。

青少年育成島根県民会議の合い言葉である「大人が変われば、子どもも変わる」。今までのままの方が良い、自分には合っていたという人も、年代を問わずいると思います。それでも、これからの時代はこども自身を権利の主体だと認識する大人が増え、自らが自由と権利の相互承認を実践する大人へと変化を見せ、子どもファーストを実践し、子どもたちと一緒に青少年育成島民活動が続けることで、「こどもまんなか社会」の実現を目指していきたいと思います。



こども基本法やさしい版
(こども家庭庁)



子どもの権利条約カードブック
(ユニセフ)



子どもの権利とスポーツの原則
(ユニセフ)

青少年育成島根県民会議 総会・表彰

令和6年度 青少年育成島根県民会議総会・令和5年度 青少年育成島根県民会議表彰式を開催しました。表彰式では、地域社会で優れた活動をする個人・団体や、青少年の健全な育成に寄与し顕著な功績をあげられた方々を表彰しました。受賞者のみなさま、おめでとうございます！

【総会・表彰式：令和6年5月17日（金）於 島根県民会館（松江市）】

【青少年の部】

青木 待心 様（松江市）

【青少年団体・グループの部】

三谷神社獅子舞保存会（子どもの部）（出雲市）

斐川相撲道場（出雲市）

【青少年指導者の部】

松崎 英治 様（松江市）

小松原博子 様（浜田市）

井藤美智子 様（益田市）

熊野 一裕 様（大田市）

大村 肇 様（江津市）

大野 節子 様（松江市）

中村 修二 様（益田市）

梅田 信男 様（益田市）

本田 司 様（安来市）

亀山佳代子 様（雲南市）

【その他の部】

羽根盆踊り子ども盆踊り教室（出雲市）

社日ペットボトルロケット研究会（S.P.K）（安来市）



令和6年度 少年の主張島根県大会

令和6年9月25日（水）に雲南市木次経済文化会館で「令和6年度少年の主張島根県大会」を開催しました。この大会は、中学生が日頃、学校生活や日常生活の中での体験を通して考えたり感じたりしたことを発表するものです。県内約100校の中学校、特別支援学校から地区大会で代表に選ばれた16名が聴衆を前に堂々と発表しました。



◆審査結果

県知事賞

- ・田本 怜花さん「つながりの中に生きて」
雲南市立木次中学校3年

青少年育成島根県民会議会長賞

- ・大石 日鞠さん「160歳からのメッセージ」
吉賀町立六日市中学校3年

優秀賞

※10名、発表順

- ・寺本 結莉さん「『サイキンノワカモノハ』」
出雲市立第二中学校3年
- ・飯塚 有美さん「『らしさ』とは」
松江市立第三中学校2年
- ・渡邊 陽南さん「未来の私たちへ」
飯南町立頓原中学校2年
- ・梅瀬 桃乃さん「これが私」
安来市立伯太中学校2年

教育委員会教育長賞

- ・野間 汐莉さん「越える つなげる」
知夫村立知夫中学校3年

審査委員特別賞

※2名、発表順

- ・土谷 陽莉さん「プリンパンボンライガ」
出雲市立多伎中学校3年

県警察本部長賞

- ・亀尾 美月さん「思いをツナグ」
島根大学教育学部附属義務教育学校9年

- ・田中 萌愛さん「亀のように遅くとも」
江津市立桜江中学校2年

- ・川西 葵さん「思いを言葉に」
奥出雲町立仁多中学校1年

- ・岩橋 愛采さん「あなたと私の間にあるもの」
雲南市立三刀屋中学校2年

- ・石原 千豊さん「被爆四世の僕が受け継いだ記憶」
大田市立第一中学校1年

島根県知事賞

全国大会奨励賞受賞おめでとうございます！

つながりの中に生きて

雲南市立木次中学校 3年 田本 怜花 さん



自分の「命」と「戦争」、つながりを意識したことはありますか。私の命と戦争をつなげたのは、1歳の時に亡くなった曾祖父が残したこの手記でした。

曾祖父は、第二次世界大戦中、24歳で満州に5年間、軍人として派遣されました。「便りが来た。子どもが生まれるとの知らせ。いよいよ親になるのだ。必ず生きて帰るんだと心に誓った。」「戦友の戦死の知らせを毎日のように耳にする。さみしい。」

終戦後は、シベリアで2年間抑留されました。「寒さ、食糧不足等で生活は厳しい。重労働のため死者が続く、地元の仲間も死んだ。このままでは全員死ぬ。」「120名いた隊員が、1年半で45名になった。」「昭和22年4月20日。うれしい話が出た。帰国の話だ。」「そして、日本の土を踏んだとき、生きた喜びに男泣きをしたと書かれていました。曾祖父は、涙も凍るほど寒い環境の中でも、日本から送られてくる手紙を原動力にし、耐え抜いたそうです。

曾祖父の肉筆の手記によって、私の家族の身にも戦争があったのだと知ったとき、戦争というものが一気にリアルなものとして私に迫ってきたのです。戦争で起きた事実から、目をそらしてはならないと身に染みて感じました。

そして、幼い頃に聞いた父の言葉がよみがえってきました。「怜花が生きているのはひいおじいちゃんが生きて帰ってきてくれたからなんだよ。」「幼い頃にはわからなかったこの言葉が持つ大きな意味に気づかされました。自分が生きることが当たり前ではないこと、自分に繋がれた命の大切さを痛感しました。私に繋がった命を、当時の人の思いを繋いでいきたい。心からそう思いました。

戦後79年を迎えたこの夏、初めて曾祖母に「戦争中の話を聞かせてほしい。」と頼み、家族で、一つの机を囲みました。曾祖母は涙ながらに話し始めました。7年もの間、産まれたばかりの娘と夫の帰国を待ち続けました。夫が生きているかすら分からないとき、シベリアから写真や手紙が送られてきたそうです。「生きていてくれて本当に安心した。」と初めて笑みを浮かべました。帰国した時、曾祖父はひどくやせ細っていましたが、元気な声と笑顔は以前のままで「やっと帰ってきてくれた。」と喜びがこみあげてきたと話してくれました。最後に曾祖母は涙を含んだ細い声ながらもはっきりと言いました。「戦争は二度とあってはいけません。」と。

曾祖母が初めて見せた深い思いと曾祖父の手記とが重なり、私の心の中で新たな気づきが生まれました。目の前にある戦争のない毎日、自分の命も「大切な人に生きてほしい」「戦争は二度とあってはいけません」という当時を生きた一人一人の思いと行動の連鎖によって生まれたものなのだと。

しかし、今、それらを繋いでいく意識が薄れてきてはいないでしょうか。

私は、戦争の理不尽な出来事、当時を生きた一人一人とその家族のつらさや悲しみの物語を風化させてしまうことが、再び戦争を起こしてしまうことに繋がってしまうのではないかと感じています。私の命の中に確かな思いのつながりがあるように、今を生きるあなたの命の中にも「大切な人に生きてほしい」という思いのつながりがあるはず。だからこそ、すべての人が気づき、心に刻んでほしいのです。「私たちはたくさんの命や思いによって生かされている」と。

この秋、曾祖母は105歳を迎えます。私たちは、当時を生きた人の生の声を聞ける最後の世代になるでしょう。だから私は、これからも戦争について語られた様々なものから思いを受け取り、伝え続けたい。思いを次の世代につなぎ、戦争のない毎日をつなげていけるのは、今を生きる「私たち」だけなのですから。

eスポーツによるデジタル人材育成 ～若者の学びや居場所づくりにどう活かせる？～

令和6年度 青少年育成県民運動推進フォーラム

“地域で育む青少年の社会参画”をテーマに、青少年の意見や行動力を青少年育成や地域活性化にどう活かすのか、そのきっかけづくりと機運醸成を目的に開催しました。

令和7年2月15日（土） 江津ひと・まちプラザパレットごうつ（江津市） 参加者：40名

<講演>

「eスポーツを入り口にしたデジタル人材育成と地方創生の可能性」

NASEF JAPAN 理事 大浦 豊弘 氏

eスポーツとは何か？からお話をスタートされた大浦さん。「eスポーツとは、エレクトロニック・スポーツの略で、広義には電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称」だそうです。

大浦さんの所属するNASEF JAPANは「eスポーツを通じて若者の成長と可能性を助け多様化が進む社会で活躍する人材の育成を支援する」を理念に掲げ、活動されています。若者の興味関心の高いeスポーツを入り口として、次代を担うデジタル人材の育成に力を入れておられるそうです。

島根県でもデジタル人材育成の取組が進んでおり、県立松江ろう学校のICTスキル向上事業の事例が紹介されました。農業DX（デジタルトランスフォーメーション）の取組として、マインクラフト（デジタル版のブロック遊びが出来るゲーム）で農業の生産性向上やメタンガス削減（経済と環境問題）について学んだり、自分のアバター（インターネット上の自分の分身となるキャラクター）に手話で会話させる技術を学んだりされたそうです。

eスポーツは今や若者の日常生活の一部となっています。「eスポーツはよく分からない」「ゲーム=よくないもの」として遠ざけるのではなく、eスポーツを正しく理解し、今後、様々な分野にどう活かせるのか考えていく必要があると大浦さんは熱く語られました。



<質疑応答・意見交換>

会場の参加者でグループを作り、講演を聴いてどんなこと感じたのか意見を話し合っていました。

青少年育成をされている方からは「公民館で高齢者向けにeスポーツ大会を開催しているが、世代間交流で何か良いヒントはないか？」という質問がありました。また、高校の先生からは「学校でCAD（コンピューターに支援される製図）や3Dプリンターを活用して授業を行っているが、これからどんな風に活動を広げていったら良いか？」という質問がありました。これを聞いて、「高校生に公民館に出向いてもらってはどうか」「学校の中だけで取組を終わらせるのではなくぜひどんどん地域に出て行って欲しい」という意見が出ました。

参加者のアンケートより…

- ・Z世代やα世代にとってゲームはとても身近なものであるため、裏の目標を持ちつつ学習に取り入れるのは面白い発想だと思った。
- ・eスポーツ？これがスポーツか？と思って参加したが、実は奥深く、多様性のあるものだと思いが変わった。
- ・eスポーツへの偏見が少し無くなった。
- ・eスポーツって何？と以前から感じていたが、講演がとても分かりやすく理解することが出来た。地元を持ち帰り、周囲の理解を求めていきたい。
- ・講師の方の熱い想いに触れることが出来て大変良かった。デジタルを地方創生につなげる話に感動した。

令和6年度 全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表島根県大会

令和6年度全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表島根県大会が令和6年10月10日（木）宍道高校で開催され、県内の高校定時制通信制に通う生徒10名が、学校生活や日常生活を通して感じた思いを自分の言葉で堂々と発表しました。

◆審査結果

1位 旅の途中

宍道高校（定時制2年次） 都築 ヤナ さん

2位 『成功者になろうとするな。価値ある人間になれ。』

宍道高校（通信制） 長谷川 陽菜 さん

3位 「日進月歩」

浜田高校（通信制） 野村 心 さん 他1名



地域で頑張る若者にインタビュー



一般社団法人 学び Design 高橋 椿太郎 さん

令和5年度から、松江市宍道町にあるギャラリーCで青少年や地域の居場所を運営する。高校3年生の夏に「脳動静脈奇形」という病気を患い、左脳を摘出。失語症や半盲、注意障害の後遺症が残ったが、必死のリハビリを重ね奇跡的に話せるようになる。



▼居場所を始めようと思ったきっかけは何ですか

高校生の頃、病気で4ヶ月近く入院したんです。退院して学校に戻ってみたら、自分の机が教室じゃなくて図書室にあって。きっと、当時の担任の先生は僕のために良かれと思ってそうしてくれたと思うんですが、当時の僕が感じたのは「ここにもう自分の居場所は無いなって」。勉強にもついて行けませんでした。それから、3ヶ月近く学校に行きませんでした。同級生たちが学校に通う中、独り家にいるのもなんだか居心地が悪くて、地元の公園とか土手なんかでボーッと一日を過ごしてみたり、松江や出雲のカフェ巡りをしてみたりしていました。

そんな日々がしばらく続いたんですが、母の勧めもあって宍道高校への転学を考えるようになったんです。ある日、母の知り合いが店主をやっているカフェに転学についてのアドバイスをもらいに行きました。何気なくスマホで撮影していると、突然店主さんが「個展やらない？」って（笑）病気で以降、言葉が全く話せなかったのが、自分の気持ちの表現方法が無かったんですけど、店主さんのその言葉で目の前がパッと明るくなった気がしました。話せなくても他の表現方法があるなって。真っ白のノートに何か描けたという自分にとっての気づきであり学びでした。

宍道高校に転学してから、「自分の存在意義」とか「他者認識」について考えている仲間が自然と集まりました。そんな仲間で高校在学中にやり始めたのが「居場所 café place」です。以前のカフェでの経験は僕だけじゃなく、他の人にも通じるところがあると思いました。これが居場所を始めたきっかけになっています。



高橋さんの趣味はコーヒーだそう

▼居場所ではどんな活動をしていますか

今は、「ユースの居場所」「みんなの居場所」「アート」「café」などの活動をしています。ギャラリーCで居場所を始めてから、この町にとってどんな居場所が必要なのか模索しながら色々なことをやってみましたが、今僕がやりたい居場所は、「フリースペース」や「ユースワーク」といったものです。

▼活動する上で心がけていることはありますか

僕、病気をする前は人を救うような仕事に就きたかったんですけど、病気をしたときに自分の病気や障害について周りの人に中々理解してもらえなくて辛くて。人を救ってそんなに簡単じゃないなと思ったんです。同時に、救ってもらわなくてもいいから、自分の痛みや辛さを知ってほしいという気持ちになりました。なので今は、居場所に来てくれた人の気持ちを知りたい、痛みや辛さを分かち合いたいという思いで日々活動することを心がけています。

▼これから、どんな居場所にしていきたいですか

学びDesignとしてのビジョンがあるんです。「みんなの居場所・ユースの居場所」という1つの主となる島があって、その周りに「音楽の島」「アートの島」「caféの島」「過去と今と未来の島」「自然とものづくりの島」という5つの小さな島があるイメージです。主の島と小さな島はつながっていて、どこの島から入っても良いし、どこの島で過ごしても良い。行き来は自由です。僕、運営者がトップになってしまう居場所は嫌なんです。各島ごとに色々な人が運営者となる居場所を目指しています。なので、今は各島ごとの運営者を育てていかないとあと思っています。簡単ではないですが（笑）居場所に来てくれた人には色々な島を入り口として、自分なりの居場所を探してくれたら良いなと思っています。

▼このインタビューを読んでくださる地域の方に伝えたいことはありますか

今後は、ギャラリーCを飛び出して、宍道町全体が「居場所」になることが理想です。そのためには、町の人一人ひとりが安心できる関係性を築いていかなければいけません。僕らのような若者や子どもが困ったときや悩んだときに、隣の家の人に相談に行ける、町全体がそんな関係性になることが理想です。

一般社団法人 学び Design

松江市宍道町宍道 1441-1(ギャラリー C)

manabidesign0601@gmail.com

070-3960-2907

どなたでもお越しください！



公式HP



Instagram



居場所利用者と談笑する高橋さん

第23回

子育て
子育て

ことのは大賞

「ことのは」とは…

子育てや子ども、家族に関する楽しさ、うれしさや感動などをひとことで表した言葉のことです。
今年度は全国47全ての都道府県から3,810通の応募がありました。県民会議では県子ども・子育て支援課が行う「ことのは大賞」事業を共催しています。【表彰式：令和7年3月1日（土）於 サンラポーむらくも（松江市）】

◆一般の部・会長賞

「大きくなったら、何になりたい?」「大きくなる時に決める!」
5歳の娘よ、これからの時代、それが正解かもしれないなあ。
(大阪府 井上 瑞穂 さん)

◆こっころの部・会長賞

父の汚れた作業着を見て □では「汚い」というけれど心の中では「ありがとう」と思える年になったよ。
(島根県 笠谷 想心 さん)



毎月第3日曜日はしまね家庭の日

月に一度、家族で過ごす時間の大切さを見直したり、家族の絆を深めたりする日です。

◆しまね家庭の日ミッションチャレンジ 2024

しまね家庭の日の協賛施設にあるミッションにチャレンジし、Instagramに写真を投稿するとプレゼントが当たるイベントを開催しました。

◆しまね家庭の日パネル展示

令和7年2月7日(金)～3月5日(水)島根県立図書館でパネル展示を開催しました。



雲南市青少年健全育成協議会(雲南市)

雲南市青少年健全育成協議会では、令和6年11月10日(日)に旧飯石小学校体育館で開催された「いいしふるさと」祭りで、うんなん家庭の日の啓発として親子で楽しめるイベント(国産の食品や植物が主原料の環境に優しいねんど工作)を開催しました。



会員・賛助会員 を募集しています!

青少年育成活動にあなたのご支援をお願いします。島根県の青少年の健やかな成長を応援しませんか?

青少年育成島根県民会議は昭和41年設立された県民総参加による青少年育成運動を目指している団体です。主に会員、賛助会員の皆様の会費や寄付金等を充てて活動を行っています。当会議の趣旨にご賛同いただける個人、団体、企業等の皆様のご入会をお待ちしています!

◆入会のご案内

県民会議ホームページの入会申込フォームに必要事項をご入力ください。受付後、年会費納入についての文書を送付します。

URL: <https://www.shimane-youth.gr.jp/member> または右記二次元コードよりアクセスしてください。→

ご入会いただくと、年1回発行の機関紙「青少年しまね」等を送付します。

会 員 青少年育成活動を支援し、推進していただける方(総会のご案内あり)

年会費(団体・企業・個人)一口5,000円(一口以上)

賛助会員 青少年育成活動に関心があり資金面で支援していただける方(総会のご案内なし)

年会費(団体・企業)一口5,000円(一口以上)(個人)一口1,000円(一口以上)



令和6年度 会員・賛助会員のご紹介

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

当会の活動に賛同され、ご支援・ご協力をいただいている会員・賛助会員の皆様をご紹介します。

※今年度の会費納入時に掲載の承諾をいただいた方のみ掲載しています(敬称省略)

◆新規入会者

会員【個人】 澄川弘敏／八束義夫

賛助会員【その他の団体】 宮ノ丁町内会【個人】 岩谷宏一／田中 徹／徳永恵美／三次隆浩／山本洋律子／米田直樹

◆既存会員

会員【青少年育成市町村民会議】 松江市青少年育成連絡協議会／浜田市青少年健全育成連絡会／出雲市青少年育成市民会議／益田市青少年育成市民会議／大田市青少年育成市民会議／安来市青少年育成連絡協議会／江津市青少年健全育成協議会／雲南市青少年健全育成協議会／青少年育成奥出雲町民会議／飯南町青少年育成年会／川本町青少年育成町民会議／青少年育成美郷町民会議／青少年育成邑南町民会議／津和野町青少年育成連絡協議会／吉賀町青少年健全育成協議会／海士町青少年問題協議会／西ノ島町要保護児童対策地域協議会／知夫村青少年健全育成推進協議会／隠岐の島町まちづくり運動協議会【青少年育成関係団体】 八雲青少年育成の会／浜田青少年健全育成推進協議会／金城地域青少年健全育成連絡協議会／青少年育成三隅町民会議／島根県青少年育成アドバイザー連絡協議会／出雲いのちを考える懇談会／一般財団法人 島根青年館／一般財団法人 島根県母子寡婦福祉連合会／益田市母子会連合会／NPO法人 緑と水の連絡協議会／公益社団法人 松江青年会議所／国際ネットワークしまね／国立三瓶青少年交流の家／更生保護法人 島根保護観察協会／島根県更生保護女性連盟／松江地区更生保護女性会／佐田地区更生保護女性会／斐川地区更生保護女性会／益田市更生保護女性会／伯太地区更生保護女性会／江津市更生保護女性会／島根県公民館連絡協議会／島根県里親会／島根県児童入所施設協議会／島根県少年補導委員連絡協議会／島根県人権擁護委員連合会／島根県身体障害者団体連合会／島根県弁護士会／島根県保育協議会／島根県保護司会連合会／島根県民生児童委員協議会／大田市民生児童委員協議会／川本町民生児童委員協議会／島根県レクリエーション協会／社会福祉法人 島根いのちの電話／社会福祉法人 島根県社会福祉協議会／国富地区社会福祉協議会／吉賀町社会福祉協議会／社会福祉法人 島根県社会福祉事業団／日本赤十字社島根県支部／松江刑務所教誨師会【青少年団体】 ガールスカウト島根県連盟／日本ボーイスカウト島根連盟【教育関係団体】 大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科／公益財団法人 島根県学校給食会／公立大学法人 島根県立大学／島根県学校栄養士会／島根県学校保健会／島根県高等学校定時制通信制教育振興会／島根県公立高等学校長協会／島根県私立高等学校長会／島根県中学校長会／島根県小学校長会／島根県国公立幼稚園・子ども園長会／島根県PTA連合会／島根県高等学校PTA連合会／島根県私立中学高等学校PTA連合会／島根県特別支援学校PTA連合会／島根県幼稚園・子ども園PTA連合会／島根県子ども会連合会【体育スポーツ関係団体】 公益財団法人 島根県スポーツ協会／島根県高等学校体育連盟／島根県中学校体育連盟／島根県小学校体育連盟【報道機関】 NHK松江放送局／株式会社 山陰中央新報社／株式会社 山陰放送【医療機関】 医療法人社団 吉田医院／医療法人 正光会 松ヶ丘病院／佐貴内科医院／医療法人 大学前のつ内科クリニック【寺社】 宗教法人 福正寺【企業】 株式会社 渡部特殊土木／西日本旅客鉄道株式会社中国統括本部山陰支社／有限会社 福岡工務店／有限会社 松本印刷【その他の団体】 出雲いのちを考える懇談会／出雲たばこ販売協同組合／一般財団法人 島根県交通安全協会／公益財団法人 島根県暴力追放県民センター／公益財団法人 島根県老人クラブ連合会／公益社団法人 島根県防犯連合会／山陰合同銀行砂子寮町内会／島根県カラオケスタジオ防犯協力会／島根県写真家協会／島根県商工会議所連合会／島根県商工会連合会／島根県書店商業組合／島根県農業協同組合中央会／島根県遊技業協同組合／島根県旅館ホテル生活衛生同業組合／島根県連合婦人会／浜田ライオンズクラブ／出雲中央ライオンズクラブ／平田ライオンズクラブ／木次ライオンズクラブ／仁多ライオンズクラブ／赤来ライオンズクラブ／頼原ライオンズクラブ／出雲ロータリークラブ／浜田ロータリークラブ【個人】 石田侑生／岩崎 靖／後藤 耕／高瀬寿子／高橋恵二／田中藤一郎／林 和博／深田 明／藤原恵子／安野 洋／山崎佳子／吉岡弘恵／吉田卓矢／吉長義親／和崎悦子【青少年育成関係機関】 松江少年鑑別所／松江保護観察所／松江家庭裁判所／島根県 島根県教育委員会／島根県警察本部／島根県市長会／島根県町村会

賛助会員【青少年育成関係団体】 浜田地区更生保護女性会／出雲更生保護女性会／松江地区保護司会／出雲地区保護司会／益田地区保護司会／安来地区保護司会／邑智地区保護司会／松江市民生児童委員協議会連合会／浜田市民生児童委員協議会／出雲市大津地区民生児童委員協議会／出雲市大社地区民生委員児童委員協議会／佐田地区民生委員児童委員協議会／神西地区民生委員児童委員協議会／多伎地区民生委員児童委員協議会／東地区民生児童委員協議会／益田市民生児童委員協議会／江津市民生児童委員協議会／知夫村民生児童委員協議会【教育関係団体】 島根県立穴道高等学校【報道機関】 山陰中央テレビジョン放送株式会社【医療機関】 医療法人 伊藤医院／医療法人 船津内科医院／医療法人 桑医院／医療法人 マザリー産科婦人科医院／医療法人 山尾医院／小竹原医院／小林病院／社会医療法人清和会 西川病院／古瀬医院【寺社】 出雲大社／岩屋寺／永昌寺／観音寺／観知寺／熊野大社／源光寺／弘長寺／島根県神社庁／宗教法人 清水寺／宗教法人 十楽寺／宗淵寺／宗泉寺／正覚寺／禅覚寺／松源寺／浄心寺／常教寺／常德寺／常楽寺／全龍寺／曹洞宗島根県第二宗務所／仲仙寺／法雲寺／本願寺／萬行寺／萬松院／御井神社／美保神社社務所／妙義寺／妙法寺／龍泉寺【企業】 イステック株式会社／出雲造機株式会社／今岡工業株式会社／雲南建設株式会社／大田生コンクリート株式会社／隠岐汽船株式会社／開盛建設株式会社／株式会社植田建設／株式会社ウエヤマ／株式会社ウシオ／株式会社内村電機工務店／株式会社大島工務所／株式会社オブジェクト／株式会社香り芽本舗／株式会社キムラ／株式会社クリアブラス／株式会社グリーンシスター／株式会社後藤建設／株式会社佐々木組／株式会社佐藤組／株式会社山陰合同銀行／株式会社三栄／株式会社サンクラフト／株式会社島根銀行本店／株式会社島根パーク／株式会社島根マツダ／株式会社第一ホーム／株式会社太陽建設コンサルタンツ／株式会社竹田組／株式会社都間土建／株式会社トガノ建設／株式会社内藤組／株式会社中筋組／株式会社原工務所／株式会社深田建設／株式会社堀工務店／株式会社松文オフテック／株式会社みしまや／株式会社宮本会計事務所／株式会社守谷刃物研究所／株式会社山口商店／株式会社ユニコン／株式会社岩多屋／株式会社豊洋／株式会社ホテル・畑／株式会社マツケイ／株式会社吉崎工務店／企業警備保障株式会社／湖北ベニヤ株式会社／五共木材株式会社／山陰クボタ水道用材株式会社／山陰建設工業株式会社／山陰水道工業株式会社／三瓶生コン株式会社／島根交通機材株式会社／島根自動車機株式会社／しまね信用金庫／正栄工業株式会社／須佐チップ工業有限公司／第一建設株式会社／第一建設工業株式会社／大軌建設株式会社／中国道路株式会社／中国労働金庫北部エリア営業本部／中浦食品株式会社／日本生命保険相互会社松江支社／浜田港運株式会社／飯古建設有限会社／平井建設株式会社／福岡商事株式会社／北陽警備保障株式会社／北陽ビル管理株式会社／本藤建工株式会社／まるなか建設株式会社／明和印刷有限会社／有限会社小川商店／有限会社沖野工業／有限会社オリオン工芸社／有限会社角田商店／有限会社かわせ美容室／有限会社黒潮社／有限会社高浜印刷／有限会社福井建設／有限会社松江自動車用品商會／有限会社山田土木／和幸株式会社【その他の団体】 一般財団法人 島根県物産協会／公益社団法人 島根県トラック協会／生活協同組合しまね／島根県学校生活協同組合／島根県酒造組合／浜田市民防衛協会／松江ライオンズクラブ／松江葵ライオンズクラブ／瑞穂ライオンズクラブ【個人】 青木志保／朝山浩行／安食治外／安達博之／飯岡秀忠／池田昂志／石原弘之／伊藤 修／伊藤敏成／今岡重之／岩崎拓治／岩本昭徳／岩元敏子／植田麻美／大賀幸恵／大場尚樹／生越 馨／小原哲朗／笠田 守／川瀬順子／北島建孝／儀満千恵／河野正人／神門洋子／甲山美紀恵／実原麻子／嶋田 隆／城市 優／昌子 裕／白石隆子／穴道正年／須山美玲／高橋 博／瀧野信一／立石典夫／田原邦子／田邊香子／土江素子／辻 まゆみ／角森浩一郎／富田真澄／内藤高彰／中島英二／中林 豊／中村祥江／長崎康弘／永島正治／野津久美子／野津雅史／蓮岡法博／長谷川利寿／羽部睦子／曳野晃夫／樋口政弘／非々玲子／平野晴美／福岡祐介／堀江隆典／本藤英満／前田秀典／松浦香代子／湊 秀樹／宮阪敏章／山口和志／両見信宏

皆さまの温かいご支援・ご協力に感謝申し上げます

令和6年度 青少年の主体的な活動支援事業 助成団体事業紹介

A 青少年地域活動チャレンジ支援事業 青少年の主体的な活動やその活動を支援する大人の支援体制づくりへの助成

市民広場協働委員会（益田市）

<子どもがつくる市民わいわい広場>

子どもたちが様々な出店や体験ブースを企画・運営することを通して、計画力、調整力、問題解決力、社会性など健全な成長を支える力を育成しました。「持ち寄り七輪」「道で書くから書道」「パーラーづくり」「おにぎり屋さん」「染め物体験」などのブースを考え、実現させました。



こなんフェスタ実行委員会（松江市）

<こなんフェスタ>

松江市湖南地区の中学生有志による実行委員会が、公民館を会場に夏祭りを開催しました。中学生自らが企画立案、調整を主体的に行い、事務局として乃木地区・忌部地区青少年育成協議会とNPO法人KEYSが参画することで青少年の社会性を育むことにも寄与しました。



いのっ子クラブ（浜田市）

<いの留学（室谷を楽しもう）>

いのっ子クラブは、子どもの育ちを地域で見守り子どもが地域の一員として活動する中で、地域を盛り上げ、子どもも大人も高めあいながらふるさとに愛着を持ち、生き活きと暮らせる地域を目指すことを目的に、平成26年度から活動しています。

今年度は、三隅町内の小学生の親子を対象とした行事を企画しました。室谷地区で棚田の散策や芋掘り体験、羽釜で炊いたご飯や焼き芋などを食べながら、地域の方から生活の知恵や昔の生活、室谷の自然について学び、地区の皆さんと交流しました。

B 青少年育成ネットワークモデル支援事業 青少年団体等が他団体とのつながりづくりのために行う活動への助成

NPO法人 おむすび（益田市）

<体験活動つながる事業>

子どもたちの体験活動を充実させることを通して、問題解決能力や協働する力のスキルを育んだり、多様な大人と出会う中で健全な価値観が形成されたりすることを目的に活動しています。

今年度は、子どもたちの体験活動に関わる人材や団体と、児童クラブとのネットワーク化を図ったり、児童クラブの職員を対象に体験活動についての講習会を開催したりしました。

あめいろ（松江市）

<高校生の演劇プロジェクト in 雑賀町>

高校生を中心に、子どもたちに分かりやすい演劇を公演することで地域の良さを再発見してもらうため、演劇好きな高校生たちの交流の場として発展させるために活動しています。

今年度は、松江市民にとってなじみ深い「松江城」に焦点を当て、堀尾吉晴と現代を生きる高校生をテーマにした「ギャルと水都と吉晴と」を公演しました。



C 青少年の居場所応援事業 継続的に青少年の居場所を運営する団体等の恒常的な活動への助成

NPO法人 緑と水の連絡会議（大田市）

<ipad・Apple ペンシルの購入>



青少年の居場所「ゆきみーる」を運営しています。以前使用していたタブレットが古くなり、使いたいアプリがダウンロード出来なくなったため、新しく購入しました。

アプリを利用し、若者がデジタルでイラストを描いたり、子どもたちがひらがなや計算練習をしたり出来るようになり、居場所での活動がより充実するようになりました。

荒木子ども教室 まなびーや（出雲市）

<学習支援・見守り活動>

平日の放課後、コミセン内に小中学生が自由に学べる勉強室を開設しました。勉強室にはスタッフが常駐し、分からないところは聞くことができる環境を整えました。また、中高生のテスト前には、土日に自習室を開設しました。子どもたちがコミセンに集まって自発的に学習したり、遊んだりしました。

多世代ふれあい食堂片庭エーゲ21（浜田市）

<倉庫内棚の改修・交流会用テーブルの購入>

多世代が交流できる食堂を月に1回運営しています。食堂を開催するときに使う物品が多く倉庫内に収納しきれずに困っていましたが、改修により収納スペースが広がり、物品の出し入れがスムーズになりました。また、これまではテーブル数の関係で座卓を利用していたが、テーブルを購入することにより、立ったり座ったりすることが難しいお年寄りも交流に参加しやすくなりました。